

令和6年度 シラバス

愛媛県宇和島高等学校津島分校

教科	地理歴史	科目	地理総合	単位数	2	学年	2年	類型	カレッジコース
教科書	第一学習社 地理総合 世界を学び、地域をつくる 二宮書店 基本地図帳			副教材	第一学習社 地理総合ノート				

学期	月	単元名	指導項目、内容	重視する評価の観点			学習のねらい・学習の目標・評価の観点
				知	思	主	
1 学期	4	第1編 地球や地理情報システムでとらえる現代社会	1章 地図や地理情報システムと現代世界 1節 地球上の世界と地図 1 目的地への行き方	◎		○	学習のねらい 多様なアイデンティティを持つ世界の人人々と共生していくためには、他者の文化を尊重するとともに、自らの文化を知ることが重要であることを学ぶ。 国際社会の中で日本が果たすべき役割を認識し、国際協力について、グローバルに考える視点と身近な問題として考える視点を身につける。
			2 地球上の位置	○	◎		
			3 世界の時差	◎	○		
	5		4 世界地図の見方・使い方	◎		○	
			5 地図から読み取る情報	◎	○		
			6 デジタル化された地図	◎		○	
			7 地理情報システムの活用	○	◎		
	6		2節 国家の結びつきとグローバル化する社会 1 国家の領域と国境	◎	○		
			2 日本の領域とさまざまな領土問題	◎		○	
			3 国家をこえた結びつき	○	◎		
	7		4 交通機関の発達と縮小する世界	◎	○		
			5 情報・通信で一体化する世界	◎	○		
6 拡大する世界の貿易と物流			◎	○			
7 グローバル化と人の移動による結びつき				◎	○		
2 学期	8	第2編 国際理解と国際協力	1章 生活・文化の多様性と国際理解 1 世界の生活・文化を写真でつかもう	○	◎		学習の目標 地理学習において主体的・対話的で深い学びを実現するために、社会的諸事象の地理的な見方・考え方に根ざした追究の視点に立つ。 グローバル化が進み国際理解の必要性が増している現代において、主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質・能力を培う。
			2 人々の生活に彩りを与える気候	○		◎	
			3 「衣」から見る世界 4 「食」から見る世界	◎		○	
	9		5 「住」から見る世界 6 暮らしを豊かにする産業	○	◎		
			7 宗教と人々の暮らし 8 暮らしを楽しむための文化	◎	○		
			9 多様性に富んだ世界の人人々と共生	◎	○		
	10		中間考査	◎	◎		
			2章 地球的課題と国際協力 1節 持続可能な社会を目指して 1 持続可能な開発目標 (SDGs) 2 地球的課題の地理的な側面	○		◎	
			2節 すべての人々の尊厳と平等が守られた社会に向けて 1 貧困問題 2 人口問題	◎	◎		
			3 食料問題 4 持続可能な水の利用	○		◎	
			5 健康・福祉問題 6 教育・ジェンダー問題	○		◎	
			3節 自然と調和した豊かな社会に向けて 1 技術革新と持続可能な産業化 2 限りある資源	◎	○		
11		3 エネルギー問題 4 都市・居住問題		◎	○		
		4節 現役世代と将来世代のための地球 1 地球温暖化問題 2 陸地の環境問題 3 海洋の環境問題	◎		○		
		期末考査	◎	◎			
12		5節 平和で公正な社会に向けて 1 世界の民族と民族問題 2 世界のさまざまな紛争	◎		○		
		3 さまざまな対立の解消に向けて	○		◎		
		4 国際社会とパートナーシップ	◎	○			
3 学期	1	第3編 持続可能な地域づくりと私たち	1章 自然環境と防災 1 地球規模で見る地形の姿と自然災害	◎		○	学習の目標 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。
			2 人々の暮らしを取りまく自然環境		◎	○	
			"	○		◎	
	2		3 変動帯の自然と防災		◎	○	
			"	◎	◎		
			4 湿潤地域の自然と防災	○		◎	
	3		5 私たちができる災害への備え	◎	○		
			2章 生活圏の調査と地域の展望 1 地域調査の方法		◎	○	
			"		○	◎	
学年末考査				◎	◎		備考

※評価の観点 知：知識・技能 思：思考・判断・表現 主：主体的に学習に取り組む態度

◆学習方法のポイント

- あなたは、あなたが住む地球(世界)のことをどれだけ知っているでしょうか。
- わたしたちを取り巻く地球環境や国際情勢は日々変化を続け、わたしたちの生活圏から地球規模にいたるまで数多くの課題を抱えています。
- これらの諸課題を解決するための方法や工夫は、地理的な見方や考え方を身につけることで見いだすことができます。
- そのためには、地球上のさまざまな自然環境や生活文化、産業といった地理的事象や世界の諸地域について認識し、多面的・多角的にとらえる必要があります。
- 21世紀を迎えた今日、地球上には80億を超える人類が暮らしています。その暮らしは多様であり、全てを知ることは到底できません。でも、わたしたちとは異なる暮らしを学ぶことによって、より広い視野で地球と世界の問題を見つめることができると思います。
- 地球と世界の現状を知り、未来を語る旅に出かけましょう！

【授業】

- 週に2回の授業があります。
- 教科書や地図帳を用いて基本的知識を身に付けます。
→ノート丁寧にまとめることが大切です。
- 地理は「どこに何があるか」が基本(大前提)にある学問です。
→普段から、地図帳を見る癖をつけておきましょう。
- 地理では、データや統計資料を活用して、作業学習や調べ学習を行います。
→それを見て気付いたこと、読み取ったことなどをメモしておくことは理解への近道です。

【家庭学習】

- 地理は決して机上の空論ではありません。生きた学問です。
→普段から、テレビ・新聞記事・インターネットなどを見て、社会情勢に興味を持つことが大事です。
- 課題追究学習の際のレポートを評価のための資料とします。

【定期考査】

- 授業で学んだことをきちんと理解できているか、理解しようと努力できているかを、みるためのテストです。
→総じて言えることですが、定期テストは「できる・できない」ではありません。「やったか・やってないか」が問われます。「よし、もう大丈夫！」と自信が持てるまで繰り返し勉強してください。やればできる。

◆評価の方法、規準

評価の方法	定期考査、授業への出席状況および学習意欲、課題提出とその内容、ノートの整理状況を ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度の3つの観点から総合的に評価します。	
評価の規準	1 学期	中間考査、期末考査(主に①と②の観点から評価します。) 出席状況および学習意欲(主に③の観点から評価します。) ノートの整理状況(主に②、③の観点から評価します。) 課題提出状況等(主に②、③の観点から評価します。)
	2 学期	中間考査、期末考査(主に①と②の観点から評価します。) 出席状況および学習意欲(主に③の観点から評価します。) ノートの整理状況(主に②、③の観点から評価します。) 課題提出状況等(主に②、③の観点から評価します。)
	3 学期	学年末考査(主に①と②の観点から評価します。) 出席状況および学習意欲(主に③の観点から評価します。) ノートの整理状況(主に②、③の観点から評価します。) 課題提出状況等(主に②、③の観点から評価します。)
	学 年	1学期の成績、2学期の成績、3学期の成績の平均